

レセプト電算運用時の窓口入力

レセプト電算の運用を開始した場合、下記の操作が変更となります。

● 部位病名入力編

■ 隙の入力

隙の入力は、レセプト電算の場合、近心隙で入力することになります。
 ※支払基金「レセプト電算の作成手引き」より
 部位が遠心隙の場合は、下記の手順(例1、例2)を参照し、入力してください。

例1) △3 の場合



1 「部位入力」画面にて隙の入力はせず、部位のみ入力し、続けて病名・処置を入力します。

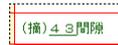
(この場合は、隙の入力はせず、右上3と入力し、続けて病名・処置を入力)

2 摘要項目として、必ず隙を入力します。

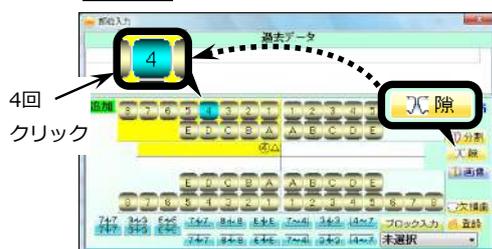
(この場合は、「(摘) 43 | 間隙」と入力)



右図のように入力してください。
 ※文言は入力例となります。



例2) ④△③ の場合



1 隙は必ず近心隙で入力します。

「部位入力」画面にて
 ①【隙】をクリック
 ②近心隙になるように歯番を入力します。

(この場合、1.【隙】をクリック→2.右上【4】を4回クリック)



右図のように近心隙となるように入力してください。



2 その後、他の歯番を入力します。

(この場合、右上【3】を2回クリック)



右図のようになります。



①△① の場合



歯番が1の歯間に隙がある場合、どちらに隙があっても必ず右側1の近心隙で入力します。

(この場合、①△① と入力)